

科目名	国際メディア論特講	担当者	コンドウ 近藤 モトヒロ 大博	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	① メディア・リテラシーを高める。 ② 現代における情報の特質を把握する。 ③ 現代におけるメディアの特質を把握する。 ④ 理想的なメディア像を探る。		
到達目標	[一般目標(GIO)] ① 時代の変化とメディア，特に新聞や雑誌の論調の変化を探る。 ② 論調・報道と現実の動きの相互関係を検証することにより，メディアの重要性を認識する。 ③ 日本近代史の理解を深める。 [行動目標(SBOs)] 以下を考察する方法論を習得する。 メディアの発達・変化がいかに時代を動かしたか，動かすか。 時代の流れや経営上の要請により，メディア・情報・論調が変容する様相。 IT化の進展，SNSの普及によるメディア・情報の変質。 学問，知識人，世論，政治とメディアのあり方，及びそれぞれの関係。 日本の報道・評論と諸外国のそれらとの相違とその原因。 メディア・情報に内在する問題の歴史的整理。 歴史認識・対外認識・自国イメージを形成するさいに陥りやすい陥穽。 メディアの今後の方途。 [準備学修項目と準備学修時間] 1篇のレポート作成に，基本教材・参考文献の読み込み，データの探索に25時間以上，manaba folioへの提出・再提出などに20時間以上，計45時間以上を要します。		
学修方略 (方法)	[アクティブラーニングの有無・学修媒体等] manaba folioの全受講者用の掲示板機能を利用し，受講者と質疑し，その過程を受講者全員に公開し，その成果を共有する。 [学修方略(LS)] ① レポート課題に沿って，教材や参考図書を読み込み，自らが問題点を抽出する。 ② 抽出した問題を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し，それに対する考え方をレポートとしてまとめる。 ③ 上記の過程で，疑問点などに関し，教員に，manaba folio，メールなどで相談・質問する。 ④ 教員から，適宜，メールなどにて伝達される情報・補助教材を活用する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末，課題(2)は8月末を目途に提出する。 いずれのレポートも9月中旬までに最終稿を提出すること。 後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬，課題(2)は12月中旬を目途に提出する。 いずれのレポートも2019年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を，問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し，全体の記載方法，注・参考文献の適切性・記載方法，最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	平常評価	20%	スケジュールの遵守の度合，メールの送受信の状況，質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	自らが最も有用と想定する新聞・月刊総合雑誌を定期購読することが望ましい。 外国の新聞・雑誌，WEBに恒常的に接することが望ましい。 そのおり，持つにいたった疑問・問題に関し，メールやmanaba folioを活用し，積極的に教員と討論すること。 レポートの題材・テーマは，自身の研究に資するように努めること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 朝日新聞社「新聞と戦争」取材班 教材名： 『新聞と戦争』上・下（朝日新聞出版，2011年） 上 ISBN:978-4-02-261701-9 780円+税 Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 799円 下 ISBN:978-4-02-261702-6 780円+税 Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 799円</p> <p>朝日新聞による戦前・戦中期の同紙の報道内容の検証。軍国主義下、新聞の取材・編集現場と経営陣の葛藤、広告と部数拡大の実態、新聞と民主主義・自由の価値、世論との相互関係等々についての歴史の教訓。かつ現在の新聞にも通底する問題を示唆する。</p>
参考図書	<p>今西光男『占領期の朝日新聞と戦争責任』（朝日新聞出版，2008年） ISBN:978-4-02-259940-7 1,400円+税 河内孝『新聞社』（新潮社，2007年）ISBN:978-4-10-610205-9 700円+税 大治朋子『アメリカ・メディア・ウォーズ』（講談社現代新書，2013年） ISBN:978-4-06-288227-9 780円+税 辻田真佐憲『大本営発表 改竄・隠蔽・捏造の太平洋戦争』（幻冬舎新書，2016年） ISBN:978-4-344-98425-7 860円+税</p>
履修上のポイント	<p>新聞論調を論ずる前に、歴史・時代の流れを把握すること。商品としての新聞の特性・限界とジャーナリズムの使命の関係を意識すること。 基本教材・参考図書としてあげないが、ネット上の情報をもおおいに活用すること。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材のうち、もっとも印象的だった章について、その概要を紹介し、かつ取り上げた理由を叙述せよ。(3,000字程度) 留意点：過去の新聞を現在の時点から断罪するのではなく、かつ「やむをえなかった」などと諦めることなく、あくまでも現在・将来に通用する新聞像及びその役割を求めること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材が示す事象を教訓として、現代における理想の新聞像、メディア像を明示せよ。(3,000字程度) 留意点：情報のすべてが商品である今日、発信源の経営が成立しなくては、情報を供給できなくなる。情報の質・精度を高めることと収益性を高めることは、ときに矛盾・相克が生じることを意識すること。かつ、活字媒体の場合、それらが生き残る方途をも考察すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 青木保 教材名： 『「日本文化論」の変容』（中央公論新社，1999年） ISBN:978-4-12-203399-3 590円+税</p> <p>戦後の日本人論・日本文化論の展開と軌跡をたどり、経済的発展と日本人の自画像を描く営みの関係を考察する。日本人の対外認識、外国人による日本・日本人論に潜む偏見とそれらが生じる原因を考察する。</p>
参考図書	<p>文春ムック『文藝春秋オピニオン 2018年の論点100』（文藝春秋，2018年） ISBN:978-4-16-008658-6 1,500円+税 小池和男『日本産業社会の「神話」』（日本経済新聞出版社，2009年） ISBN:978-4-532-31435-4 1,800円+税 竹内洋『革新幻想の戦後史』（中央公論新社，2011年）ISBN:978-4-12-004300-0 2,800円+税 近藤大博『月刊総合雑誌拾い読み(2011-2015)』（未来へのメッセージ舎，2016年）Kindle版 https://www.amazon.co.jp/ 533円</p>
履修上のポイント	<p>日本人による日本論、外国人(たとえばアメリカ人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。また、日本人による外国論(たとえばアメリカ論や中国論)と外国人(たとえばアメリカ人や中国人)による日本論の相違が生じる理由・背景を把握するよう努めること。 上の営為は、国際関係を考究するさいに、肝要な、客観的な自国分析・他国把握を可能にする。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材の4つの区分のうち、一つの時期を取り上げ、その特徴を論述せよ。(3,000字程度) 留意点：その時期が、現在の論調や日本・日本人の自己認識(自画像)といかなる関連・関係があるかを考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材の問題提起を踏まえ、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどでの、現在の日本人による外国に関する報道・評論を、または外国人による日本に関する報道・評論を、批判的に考察・論述せよ。(3,000字程度) 留意点：対象としやすいのは、雑誌論文である。 各自の研究に資するような題材にすること。</p>